

私がオーロラの継続観測をしているスウェーデン北部（ヨックモック郡ポルユス駅）は、ついに白夜の季節に入りました。「白夜」というのは、太陽が地平線化に全く沈まない日（またはその深夜）のことです。北緯 66 度 33 分以上（または南緯 66 度 33 分以下）の地域で、少なくとも 1 年に 1 日以上起きる現象で、その地域のことを「北極圏」（または南極圏）といいます。

南極圏の大部分は南極大陸で、定住者はほとんどいませんが、北極圏には少なうながら定住者がいます。スウェーデン北部の北極圏は良質の鉄鉱石を産出するので、いくつかの大きな街もあります。

白夜に入った北極圏の空に、珍しい「大気光学現象」が現れました。これは夜中 0 時の写真で、地平線すれすれの太陽、その周囲に「暈（うん）」、太陽から上に伸びる「太陽柱」、太陽の左右に薄い「幻日」、それに太陽のかなり上に V 字型の「上部タンジェントアーク」が写っています。いずれも日本でも観測される現象ですが、これだけ一度に見られるのは、白夜の北極圏ならではの現象だと思います。まるで「大気光学現象の展覧会」のような写真だと思います。特に上部タンジェントアーク（上端接弧）が、これだけ鮮明に現れることは非常に稀です。どうぞ活用ください。いずれ動画も公開します。

